

Bibliophiles

ビブリオフィルス No.8(2018年度)

新着図書案内・お知らせ 西宮東高校図書館



『武士の日本史』 高橋昌明
「武士とは一種の芸能人である」
「武士は平安時代の初期から存在していた」
「最古の武家政権は鎌倉幕府ではなく、平家による六波羅幕府である」
本書は、武士に関する、こうした「目からウロコが落ちる」ような知識に溢れている歴史書です。

筆者は神戸大学の名誉教授で、かつてNHK大河ドラマの『平清盛』の時代考証も務めていた、中世史のスペシャリストです。日本が世界に誇る「サムライ」について、少し詳しく学んでみませんか。

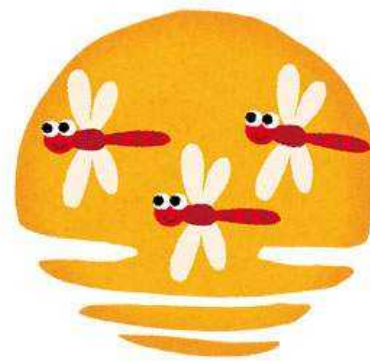
『E = mc²のからくり エネルギーと質量はなぜ等しいのか』 山田克哉
たった1発の原子力爆弾で、瞬時に大都市を壊滅できるのはなぜでしょうか？ それはこの本のタイトルの数式のように、モノのm(質量)をE(エネルギー)に変換するからですね。実際、広島原爆ではわずか0.7グラムのウランが消えて爆発のエネルギーに変換されたようです。アインシュタインや相対性理論に興味のある人は、必読の入門書ですね。

『銃』 中村文則
主人公の若者は、偶然に道路上でピストル自殺をした死体と銃を見つけ、その銃をこっそり持ちかえって自分の宝物のように磨いて楽しんでいましたが・・・
芥川賞作家・中村文則のデビュー作で、東京でフリーターをしながら「何かに取り憑かれたように」(作者の言葉)書いた作品です。ちょっと心が病んでいるというか、「闇」を感じさせる主人公の内面の描写が印象的な作品で、このたび村上虹郎の主演で映画になりました。11月からの全国公開に先駆けて、原作の方も読んでみませんか。

『大相撲の解剖図鑑』 伊藤勝治
次のわざの中から、必ずしも相撲の「禁じ手」ではないものを一つ選んで下さい。
①握りこぶしでパンチする。
②足でキックする。
③頭髪をつかむ。
相撲をよく見ている人ならすぐに分かったことでしょうか、正解は②ですね。この本は、こうした相撲に関する基本的な知識を詳しく、かつ豊富なイラストで解説してくれています。これを読めば、テレビの相撲も面白さ倍増!かも、です。

『未来の年表 2 人口減少日本であたに起きること』 河合雅司

これからあなたに起きること・・・「ネットで買った商品が一向に届かない」「食卓から野菜が消える」「鉄道路線が消えていき、遅刻者が続出する」etc。
少子高齢化がもたらす日本の未来の問題をみごとに浮き彫りにした前作の『未来の年表』。その続編である近作は、さらに具体的に私たちの日常生活にどんな少子化の悪影響がもたらされるのか、をあたかもカタログのように並べ、問題の深さを浮き彫りにします。



マンガ『項羽と劉邦』、買い換えました!

漢文の教科書とも関連の深い横山光輝の名作漫画。相当に経年劣化していましたので、思い切って全冊買い換えました。サイズも普通の単行本並みに大きくなり、見やすくなっています。また中国文学者・井波律子の解説も付きました。

『星野源 音楽の話をしよう』
朝ドラ「半分、青い。」で毎日彼の歌声が聞ける星野源。俳優やエッセイストとしても活躍していますが、この本では12人の豪華ゲストと共に彼はたっぴりと好きな音楽の話をしています。

『図解 なんかへんな生きもの』 むまがさワタリ(絵・文)

たとえば、カモノハシ。その姿は可愛らしいですが、哺乳類なのに卵を産み、しかも犬を死にいたらしめるほどの毒針を持っています。またアライグマはその名前に反して、実際には獲物を洗ったりせず、熊の仲間でもありません。『ゆかいな生きもの⑧図鑑』に続く、生物の意外な側面をイラストとともに楽しく紹介するシリーズです。

『東大流 これからはじめる囲碁入門』 光永淳造

「駄目(だめ)」とか「八百長」とか、私たちが普段使っている言葉には、じつは囲碁に由来したものが数多くあります。またゲームの「局面の総数」(難易度)を数学で計算すれば、チェスが10の123乗、将棋が10の226乗なのに対し、囲碁は10の360乗という天文学的数字を誇っています。そんな囲碁ですが、「灘高→東大→プロ棋士」という異色の経歴を持つ筆者のこの入門書を読んで、あなたも囲碁の世界の扉を開いてみませんか。カラー刷りの写真も多く、入門者用の小さな碁盤(9路盤)で解説してくれていますよ。

今号のひとこと

Le nez de Cléopâtre, s'il eût été plus court, toute la face de la terre aurait changé.
クレオパトラの鼻がもう少し低かったのならば、(彼女の顔ばかりか)地球の全表面は変わっていただろう。
ブレーズ・パスカル(1623-1662)

もし「絶世の美女」と呼ばれるクレオパトラが美人でなかったとしたら、ローマの政治家との恋も無く、戦争も起きなかつたら、というような意味です。作者の『パンセ』という哲学書の一節ですが、パスカルの名は「ヘクトパスカル」という気圧の単位にもなっている通り、物理学や数学にも大きな業績を残しました。16歳の時に数学の『円錐曲線試論』を発表するなど、彼のIQは200近くはあったのでは、とも言われています。